

## 災害対策訓練「多数傷病者受入訓練」を実施 ～東日本大震災から間もなく6年、風化させないために～

横浜市立大学附属病院では、大規模災害を想定した「多数傷病者受入訓練」を3月1日に実施します。金沢区防災計画では、震度6弱～7の地震が発生した場合、金沢区における揺れや火災による死傷者数は、およそ1,500人に上ると想定されています。

大震災や水害などの自然災害を中心とする広域災害や、大規模火災やガス爆発等の局所災害が市域で発生した際、横浜市立大学附属病院は災害拠点病院<sup>\*1</sup>として、多くの傷病者を受入れ、医療の拠点となる使命を有しています。

### 【訓練概要】

- 日 時：平成 29 年 3 月 1 日（水）  
 時 間：14 時～16 時  
 場 所：横浜市立大学附属病院 1 階救急外来  
 （横浜市金沢区福浦 3-9）  
 参加者：医師、看護師、医療技術職、事務職員、学生  
 （医学科、看護学科）など 80 名程度  
 訓練想定：首都直下型地震（震度 6 弱）の発生により、  
 多数の傷病者が発生  
 訓練内容：  
 ・傷病者の受入れとトリアージ  
 ・救急外来での災害対策本部の設置及びゾーニング  
 ・トリアージした傷病者の救急外来各エリアでの適切な治療  
 ・救急外来から手術室等への患者搬送



（昨年の訓練の様子）

多数傷病者受入訓練では、1階救急外来にトリアージエリアを設置します。救急車や独歩で来院する傷病者を重症度によって分けられたエリアに搬送し、優先度に応じて適切に診療を行う手順を訓練により確認します。また、訓練では、ムラージュと呼ばれる特殊メイクを施した実際の傷病者に近い模擬患者を用意することで臨場感を高めます。

この訓練には、医学部医学科や看護学科の学生も参加し、訓練を通じて災害医療現場を知ってもらうことで、災害医療に関する興味や関心を高める機会にもなっています。

<sup>\*1</sup> 災害拠点病院…災害時に地域の医療機関を支援する機能を有する病院で、重症・重篤な傷病者を受入れるなど、災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う施設として位置づけられている病院。神奈川県内では 33 か所（横浜市内 13 か所）が指定されています。

当日は取材が可能です。ご希望の場合には事前にご連絡ください。